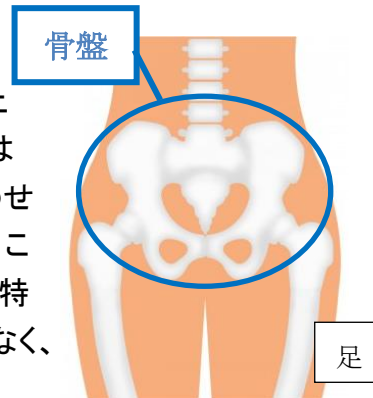
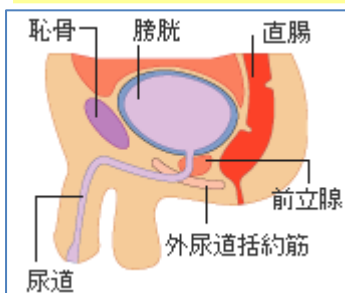


●体の中心にある骨盤の役割

みなさんは骨盤ってどこの場所にあるか知っていますか？右図のように上半身と下半身のつなぎ目にあり身体の中心にあります。中心にあるという事は力の源でもあり、動きの基盤になる所です。また、二足歩行＝立つことに合わせて骨盤を立体的で器のような形状に変化させ、内蔵を支える役割もあります。この中には骨盤内蔵と言われる、膀胱・直腸に加え、男性特有の前立腺、女性特有の子宮・卵巣が収まっています。骨盤は身体の中で動きの基盤だけでなく、性差特有の臓器を守る大切な場所です。



●男性の骨盤内はどのようなになっているの？



男性の骨盤内には膀胱や直腸に加え、男性特有の生殖器である前立腺が、膀胱の真下にあります。

前立腺はクルミほどの大きさで、尿道を取り囲んでいます。主な働きとしては前立腺液の分泌。精囊から分泌された精囊液を精巣で作られた精子と混合し精液を作り、射精における収縮や尿の排泄なども担っています。前立腺の病気で代表的なものに、前立腺がんと前立腺肥大症が挙げられます。

前立腺がんは早期に発見・治療をすれば完治を目指すことができますが、放っておいた場合にはリンパ節や骨に転移が起こりますので、できるだけ早期に発見することが重要です。前立腺がんになりやすい危険因子は年齢(加齢)、遺伝、生活習慣などで、近年、日本人に患者数が増加している病気です。

前立腺肥大症とは、前立腺が肥大して尿道を圧迫し、排尿障害を起こす病気です。前立腺肥大症の主な症状は、「尿をする回数が多い(1日8回以上)」「急に尿がしたくなって、がまんが難しいことがある」「がまんできずに尿をもらすことがある」「夜何度もトイレに行く」「尿が出にくいことがある」などです。

●前立腺の病気早期発見のための検査について

前立腺がんは初期には症状がほとんどないため、早期発見・早期治療のためにはPSA検査を定期的に行うことが非常に大切です。

採血をして血液中のPSA(前立腺特異抗原)という物質の量を測ります。PSAは前立腺から分泌(精液中に放出される)されている物質です。正常な方の血液の中にもわずかに含まれていますが、前立腺に異常があると濃度が高くなります。前立腺がんがある場合も鋭敏に数値が上がるため、がんをチェックする有効な指標として使われています。非常に有効な検査ですが、PSA値は前立腺がん以外の異常(前立腺肥大症、前立腺炎など)でも上昇しますので、がん以外の病気の早期発見にも役立ちます。

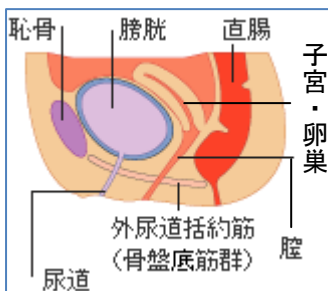


当施設オプション検査

腫瘍マーカー前立腺検査	前立腺腫瘍マーカーPSAを測定	¥2,000[税別]
NEW アミノインデックス検査	血液中のアミノ酸濃度を測定しがんのリスクを分析	¥25,000[税別]

※同法人のカーム尼崎健診プラザでは骨盤内MRI検査も実施しております。

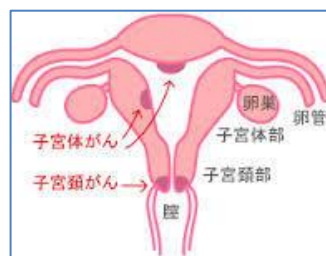
●女性の骨盤内はどのようになっているの？



女性の骨盤内には膀胱や直腸に加え、女性特有の生殖器である子宮と卵巣が腔の上端とつながって位置しています。

子宮は厚い筋肉の壁でできた袋状の構造をしており、妊娠時の体内で子供(胎児)を育てるときには、胎児の入れ物になる器官です。子宮の主な病気に子宮がん、子宮内膜症、子宮筋腫が挙げられます。

子宮がんには2種類あり、子宮頸がんと子宮体がんに分けられます。子宮頸がんは、ヒトパピローマウイルス (HPV) の長期間の感染による発症が多い為、異形成(子宮頸癌になる前の病変)の状態での発見可能であり、定期的な検診で異形成段階での発見・治療により癌の発症を未然に防ぐことができます。一方、子宮体がんは女性ホルモンのエストロゲン(卵胞ホルモン)による影響の蓄積が大きいと言われています。そのため、中高年(50~60代で好発)し、初経が早い・閉経が遅い・出産歴がない・肥満・糖尿病・高血圧など、エストロゲンの影響が強い人はよりリスクが高くなっています。



子宮内膜症は、子宮内膜の組織が子宮内腔や子宮体部以外の骨盤内で増殖する原因不明の病気です。良性の病気ではありますが、転移や浸潤するなど悪性腫瘍のような性質も併せ持っています。子宮外にあるとはいえ子宮内膜であることに変わりはないので、エストロゲンに依存して発育していきます。

子宮筋腫は、子宮の筋層に存在する原因不明の良性腫瘍であり、半数以上が症状はありません。また悪性化も極めて稀なため、健診等で発見され、特に医学的な介入が必要ないことが殆どです。ただし、粘膜下筋腫の場合に、不正性器出血や月経困難症、不妊症の原因となることがあります。

卵巣は子宮上端の左右に2個あり、長さ数cmの長楕円形の形をしています。主に卵子を作り、エストロゲン(卵胞ホルモン)、プロゲステロン(黄体ホルモン)を分泌する内分泌器官です。卵巣の主な病気に卵巣嚢腫が挙げられます。

卵巣嚢腫は、卵巣内に液体や脂肪がたまってしまふ、触るとやわらかい腫瘍で原因不明の病気です。肥大するとこぶし大やそれ以上になることも少なくありません。卵巣嚢腫は9割が良性であるといわれています。

●子宮・卵巣の病気早期発見のための検査について

子宮の病気は月経の関連症状や不正出血等でみつかれるケースもありますが、子宮頸がんの異形成段階を発見することが出来るのはがん検診のみです。また、がん検診の際の医師の内診により、子宮筋腫や卵巣嚢腫を発見されることも珍しくありません。そのため、定期的ながん検診の受診が有効です。

当施設オプション検査

腫瘍マーカー子宮がん検査	卵巣がん腫瘍マーカーと子宮頸がん腫瘍マーカーを測定	¥4,000[税別]
子宮頸がん検診	子宮頸部細胞診と内診	¥3,000[税別]
子宮体がん検診	子宮体部細胞診と内診	¥5,000[税別]
NEW アミノインデックス検査	血液中のアミノ酸濃度を測定しがんリスクを分析	¥25,000[税別]

※同法人のカーム尼崎健診プラザでは骨盤内MRI検査も実施しております。

バックナンバーはホームページよりダウンロードできます。

定期購読を希望される方や内容についてのご質問がございましたらお気軽にお問い合わせください。